

ご存知ですか？新しいスタートアップ支援のカタチ 「スタハブくまもと」

はじめに

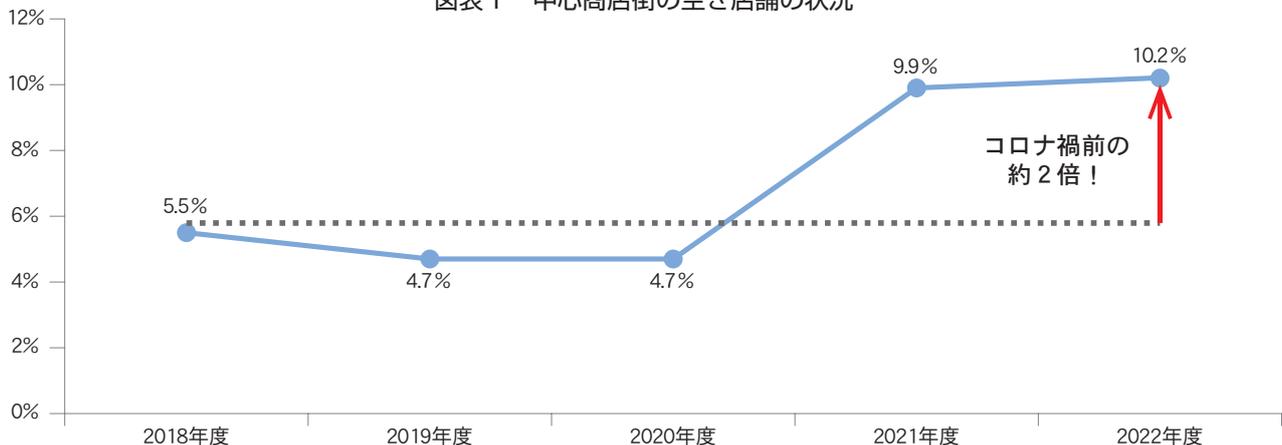
コロナ禍も3年が経過し、ようやく経済活動に回復の兆しが見えてきた。しかしながら、街中に目を向けると「空き店舗」、「入居者募集」と書かれた看板を目にする機会が増え、しかもその状態が長期間続いているように感じる。以前の活気を取り戻すためにも、空き店舗への新規出店により、街中のにぎわいをいかに復活させるかが重要となってくる。そのような中、肥後銀行は新規出店を目指す起業家がスムーズに事業を立ち上げられるよう、ワンストップでの手厚い支援を目的として、「スタートアップハブくまもと（以下、スタハブ）」を2022年4月に開設した。スタートアップと聞くとベンチャー企業のイメージが強いかもしれないが、スタハブは飲食店やサービス業などを中心とした新規開業支援に取り組んでいる。

1 空き店舗の状況 ～中心市街地が抱える課題～

熊本市の中心商店街は、全国的にみても有数の活気あふれる商店街として知られていた。しかし、コロナ禍における人流の激減やライフスタイルの変化によって、空き店舗増加によるにぎわいの喪失などの課題を抱えている。実際に熊本市が実施した調査からは、空き店舗率が大きく上昇していることが見てとれる（図表1）。

この状況を打破すべく、今までにはない、新しい方法で起業を支援するためのハブとして、スタハブが熊本市中央区（銀座通り沿い：肥後銀行銀座通支店跡）にオープンした。

図表1 中心商店街の空き店舗の状況



資料：熊本市「商店街業種及び空き店舗調査結果」を基に当研究所作成

2 「スタートアップハブくまもと」ってどんなところ？

(1) 支援内容

スタハブは、「お金だけではない価値を提供し『オールくまもと』のメンバーを繋ぐことで熊本での開業を全面的に支援する」を使命としている。その実現のために、ファイナンス、コンサルティング、ビジネスマッチング、コミュニティ、事業承継のそれぞれにおいて、開業までの「かゆいところに手が届く」支援だけでなく、開業した店舗の持続性を高めるために利用者に寄り添った伴走型の支援を実施している（図表2）。

図表2 スタハブの提供する主な支援内容



資料：スタハブHPより一部編集

(2)具体的な取組み

①ファイナンス

新規開業の際、どのように開業資金を調達するかは大きな不安材料の一つである。スタハブでは、金融機関の一組織であるという利点を活かし、開業希望者それぞれにあった資金調達方法を提案している。特に、10億円規模で組成した「くまもと創業・開業応援ファンド」は、自己資金がゼロでも開業したいという起業家のニーズに応える仕組みとなっており、利用者からもスムーズな開業につながったと感謝の声も聞かれる。

②コンサルティング

資金調達と並行して、新規開業の際には事業計画書の作成も必要となる。書式こそネット上でダウンロードできるが、初めての書類作成に戸惑う事業者が多いのも事実である。そこで、スタハブでは事業計画書の作成支援も実施しており、結果としてスムーズな資金調達へと繋がっている。

また、肥後銀行の関連会社である(株)グローバル・クラウドファンディングと連携し、前払いのチケットを購入することで新規開業店舗を応援できる仕組みも構築しており、開業後のフォローも万全である(図表3)。

図表3 ECモールでの応援キャンペーン



資料：(株)グローバル・クラウドファンディングHPより

③ビジネスマッチング

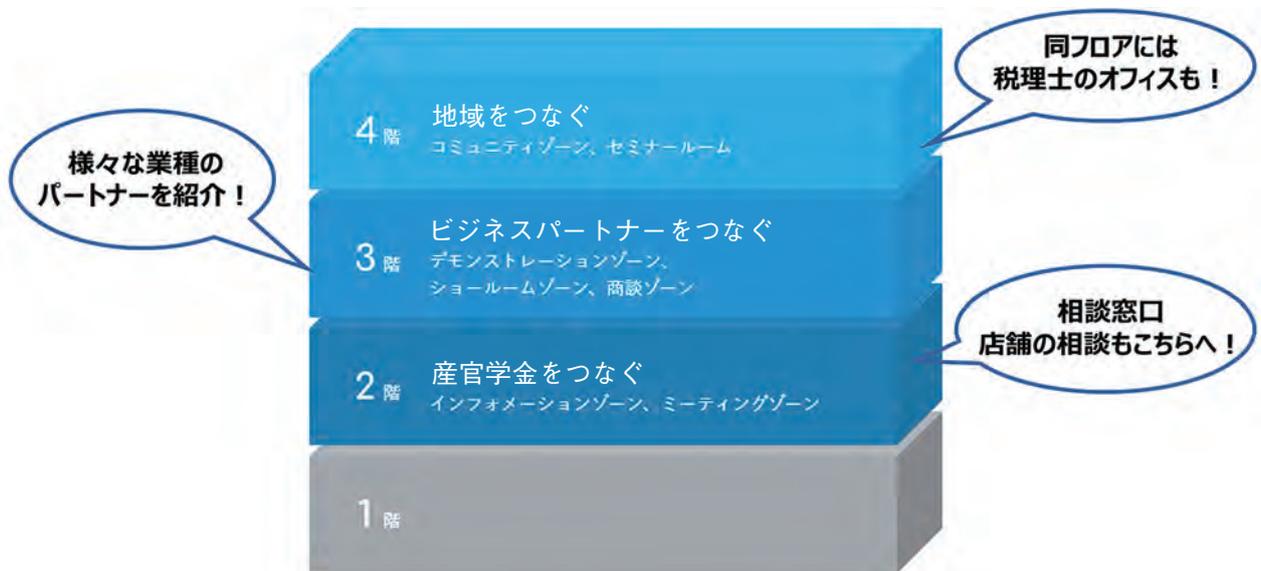
資金調達が目途がついても、その後には店舗、内装、取引業者の選定、行政との各種手続きなど時間と手間暇がかかる。スタハブでは、スムーズな新規開業の支援ができるよう、これらの手続きをサポートし、各種手続きの相談が1ヵ所で完結できる仕組みを構築しており（図表4）、「開業についての悩みをワンストップで解決できる」点はスタハブの強みと言える。

現在、産官学金約70の企業・団体が創業・開業に必要な支援を提供するビジネスパートナーとなっており、相談者のニーズに応じた業者の紹介によるビジネスマッチングにも繋がっている。

パートナー^(*)は随時募集中。スタハブの担当者は、「連携して、一緒に熊本を盛り上げていく企業・団体様からのお声掛けをスタッフ一同お待ちしております！」とのことだ。

※パートナー一覧はスタハブHP (<https://www.higobank.co.jp/startup-hub-kumamoto/>) よりご覧いただけます。

図表4 スタハブのオフィス



資料：スタハブHPを基に当研究所にて作成

④コミュニティ

実際に店舗をオープンしてからは、新たな経営課題が発生し経営者を悩ますこともあり、事業の持続性を高める支援が必要となる。そこでスタハブでは、メンター（指導者）制度を導入し、創業者伴走支援セミナーやスタハブ利用者による異業種交流会を開催している（図表5、6）。これらは、事業運営における悩みの共有および解決に向けた連携などの相乗効果が生まれるような環境整備につながっている。実際に、この交流会の参加者同士のマッチングなど、持続可能な事業に向けた取組みが創発される好循環が生まれている。

図表5 メンターによるセミナー



資料：スタハブ提供

図表6 異業種交流会の様子



(3)高まるスタハブへの期待

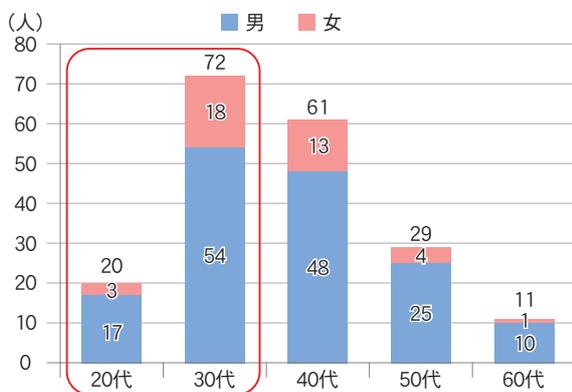
開業に至るまでの支援はもちろん、その後の事業運営までの手厚いサポートによる口コミの広がりや銀行のネットワークの活用などにより、これまで県内全域に193件の支援実績がある（2023年3月末時点）。その内訳をみると約6割の122件は個人事業主である。また、新規開業者の年齢は20～30代が92件と約半分を占め、若い世代の開業が目立っている（図表7）。業種は飲食業が約4割を占め、次いでエステや美容業、ジムなど幅広い業種の開業を支援していることが分かる（図表8）。

コロナ禍による行動制限緩和により、今後は観光やビジネスで熊本を訪れる人も戻ってくるだろう。商店街に空き店舗が目立つと寂しい印象を与えかねないので、活気のある熊本を体験して、「また来たい」と思ってもらいたい。

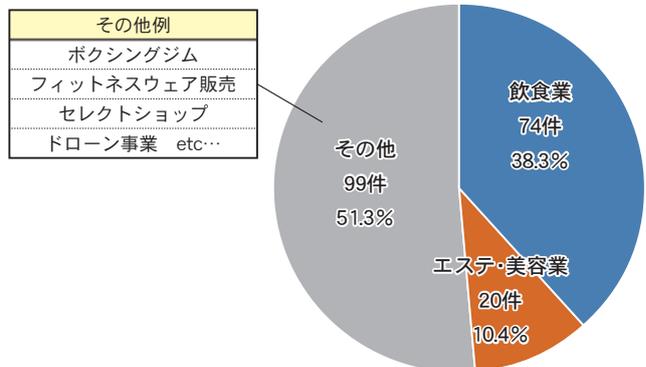
スタハブへの相談は依然として増えており、これは期待の高まりとも言えるだろう。スタハブには今後も、中心商店街のにぎわい回復とともに、県内全域の飲食・サービス業の魅力アップの支援を期待したい。

最後に、次ページ以降で実際にスタハブを利用した3名の声と、スタハブの責任者からのコメントを紹介していく。

図表7 開業者の年齢・性別



図表8 業種内訳



資料：スタハブ提供資料をもとに当研究所作成

3 実際に利用した人の声

(1)「14 (じゅうよん)」(熊本市中央区中央街)

オーナーの村尾さんは、開業前は福岡の飲食店に勤務していました。「いつかは自分の店を持ちたい」と、開業に向けた情報収集をしている時に、スタハブをニュースで見て気になっていたそうです。

「実際に開業に向けて動き出した頃、資金をどのように調達するかが最大のカベに感じていました。そこで、スタハブに相談したところ、事業計画書の書き方や開業の手続きの仕方、税理士の紹介などのサポートもあり、スムーズに資金調達できた点が非常にありがたかったです。また、自己資金についても不安を抱えていたましたが、ファンドを利用したことで自己資金を手元に残しつつ、開業に必要な資金を調達できた点もよかったです」とおっしゃっていました。

開業を検討している知人には、「自信を持ってスタハブを紹介している」と村尾さん。「オーナーは一人でも色々としなければならず孤独を感じると聞くこともありますが、自分はスタハブがしっかりと伴走してくれたので、一人だけれど一人ではないと感じられます」とすてきな笑顔で話されていたのが印象的でした。



オーナーの村尾さん



おすすめの一つ「エビとパリパリじゃが芋」

(2)「private gym Stairs」(熊本市中央区水道町)

今回が初めての創業だったという代表の西嶋さん。最初に相談に訪れた金融機関では「いきなり来られても…」という反応だったそうです。その後、スタハブのパートナーでもある熊本県よろず支援拠点に話を聞きに行ったところ、スタハブの紹介があり、相談から約1ヶ月で資金調達できたとのことで「スピーディでありがたかった」と話されていました。

スタハブを紹介されるまでは、ネットで情報を集めながら開業準備を進めていたものの、とても時間がかかっていたそうです。「開業を考える時、一步目のハードルが高く、踏み出せない人も多いのではないかと思います。ですが、スタハブがその一步目を支援してくれて、自分一人では気付けなかったようなことも気付かせてもらえました」と西嶋さん。

高校で九州チャンピオン、大学で日本チャンピオンの経歴があり、パーソナルトレーナーの資格を持つ西嶋さんから、それぞれにあった指導をしてもらえます。



代表の西嶋さん



ボクシングも体験できるジムスペース

(3)「チャングーカフェ」(熊本市中央区新市街)

オーナーの本田さんは、インドネシアのバリ島で日本人観光客向けのガイドをしていましたが、コロナの流行により帰国を余儀なくされました。その後、バリ島でも人気の田園風景が広がるチャングー地区をイメージし、女性一人でも入りやすいお店をコンセプトにこのお店をオープンしました。

現地ガイドになる前は、熊本でバーを経営しており、開業経験はあった本田さん。その時の繋がりなどもあり、取引業者選びはある程度スムーズに進んだそうです。また、内装を自身で手掛け、開業の費用も自己資金で対応したため、当初はスタハブの利用はありませんでした。

その後、コロナの感染再拡大の際にスタハブを利用したという本田さんに、「もし初めて開業するときに、一から支援してくれるスタハブのようなところがあったらどう思いますか」と尋ねたところ、「ありがたいですね。多分頼っていたと思いますよ」とのこと。

開業経験者から見ても、スタハブは頼りになる存在のようです。



こだわりの内装



オーナーおすすめのセット

カレーはバターチキンとほうれん草チキンの2種類

4 「スタハブくまもと」より



西プラザ長

熊本の中心市街地に約3000店舗あったテナントのうち、3年間のコロナ禍で約2割(600店舗)が休業、廃業に追い込まれました。このような現状を踏まえ、商店街の空洞化や地域経済の衰退を食い止めるには創業・開業を増やすことが重要だという思いで開設したのが創業・開業プラットフォーム「スタハブくまもと」です。おかげ様で順調に開業実績も増えており、そのうち約半数を占める20代~30代の若い起業家さんの夢と一緒に実現させることができ、毎日楽しく仕事をしています。熊本の皆さんの夢の実現のために、店舗の選定から設備の導入、資金調達など創業・開業のことなら何でも良いので、お気軽にご相談ください。



スタハブのインスタアカウントはこちら！

魅力的なお店が多数紹介されています！
ぜひフォローしてみてください！

名 称	スタートアップハブくまもと
住 所	熊本市中央区下通1丁目9-9
電 話	096-353-1188
担 当	西、武田